



南三陸町 飛躍の年に

南三陸町長 佐藤 仁

輝かしい新春を迎え、町民の皆様方におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろから町政の各般に渡り、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成十八年を顧みますと、国際的には混乱したイラク情勢の今後の不透明さ、隣国北朝鮮における核実験の実施、あるいは拉致問題など我が国の安全保障及び社会経済に大きな影響を及ぼす事業が山積しており、今後の政府の手腕に期待しているところであります。

一方、当町におきましても十月六日から八日にかけて発生した低気圧豪雨災害では、停電や浸水、養殖施設の流出など近年にない大きな被害を受けました。水産業を基幹産業としている当町としては、被災者のいち早い復興を願い、国県へ復興支援を働きかけ、あるいは税の減免支援等を行って参りました。

このように内外に暗い話題のあった中で、新町「南三陸町」となって丸一年を

経過した訳ですが、先の合併協議会において策定した新町建設計画に掲げられた諸課題に対する取り組みとともに、私が新町においていち早く取り組み、成し遂げなければならぬと深く認識したことは、旧町における垣根を取り払い、一つの町としての一体感を醸成することにありました。そして、この認識のもとに、新町一体感の醸成を政策課題の一つに掲げ、各種施策に携わって参りました。とりわけ、新しい町章を全国公募によって決定したことや仙台台園及び関東園において活躍している方々十二名を当町夢大使としてご委嘱申し上げ、現在多方面に渡って当町のPRを行っていただいております。すことは、周知のとおりであります。また、新町一体感醸成のためには、町の知名度アップが大切であるとの考えから、「南三陸町ブランド塾」を立ち上げ、著名な講師のもとで現在塾生が研鑽を積ん

でおり、特産品等のブランド化へ向けた取り組みを行っております。

このように、行政側で一定の施策を推進いたしておりますが、一方町民各位においても各種イベントを通じて旧町関係者が歩み寄り共通認識のもとに開催するなど、まちづくりの意識が萌芽しつつあり、大変喜ばしいことであると感じております。

町では、ただいま新町のまちづくりの指針というべき「南三陸町総合計画」を策定中であります。広く町民各位の声を耳をかざしながら将来に向けた基本構想を描いて参りたいと考えておりまして、山積する行政課題に財政厳しき折、如何に対応していくべきか、職員共々英知を絞っておりますので、町民皆様のますますのご指導とご協力をお願いするものでございます。

本年が町民皆様にとって幸多き一年でありますようご祈念申し上げます。